

**みやぎNPO夢ファンド(C)スタートアップ支援プログラム
平成19年度助成事業 最終報告書**

書式 4

2008年4月30日

団体名	特定非営利活動法人ワンダーポケット
事業名	病児と家族のための滞在施設(ラッコハウス)の設置
連絡担当者お名前(ふりがな)	鷲尾 理恵(わしお りえ)
助成金を使って行った事業について、ご記入ください。 (事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)	
1. 病児と家族のための滞在施設「ラッコハウス」の管理運営	
<p>滝道にあるアパートの一室に生活用品や寝具などをとり揃え、病児と家族を受け入れる滞在施設「ラッコハウス」を2007年5月7日に開設いたしました。開設から2008年3月末までの利用者はのべ25組、66名でした。</p> <p>・・・別添資料</p> <p>利用日の前後にはハウスボランティアの方にご協力をいただきながら清掃管理を行い、清潔な寝具カバーの装着、消耗品の補充、お子さんの利用がある場合は年齢に応じた遊具を準備するなど、快適に過ごしていただけるよう準備を整えてお迎えしました。</p> <p><ハウスボランティア活動報告> ・・・別添資料</p> <p>開設と同時に立ち上げた滞在施設管理運営委員会は、2~3ヶ月に1度開催し、主な利用対象者のいる東北大学病院の地域医療連携室のご担当者との情報の共有や利用促進のための意見交換、あるいは課題解決の場として活用いたしました。</p> <p>・・・別添資料</p> <p><滞在施設管理運営委員会の開催日> 第1回/7月5日、第2回/9月10日、第3回/12月3日、第4回/3月4日</p> <p>【管理運営費の内訳】</p> <ul style="list-style-type: none">水道光熱費・・・ガス、水道、電気代寝具クリーニング代・・・料金は通常よりも安く設定していただきました消耗品費(トイレトーパー、洗剤、寝具カバー、マット類など)町内会費・・・1年分4200円ハウスボランティア交通費・・・1回1000円リーフ作成費(リーフレット、ポスター、チラシ作成の紙・インク代)管理運営委員会会場費・・・せんだいメディアテーク、宮城県民会館	

助成金を使って行った事業について、ご記入ください。(続き)

2. 「ラッコハウス」の広報活動

ラッコハウスをたくさんの方にお知らせし、もっと積極的に利用していただくために、病院内での周知徹底に力を入れました。リーフレットの作成はもちろんのこと、それを入れるリーフ立てを手づくりし、東北大学病院の小児病棟や健康情報館など5ヵ所に置いていただきました。同時に、地域の方はもとより一般の方々にも病児と家族の支援の必要性について啓蒙し、ご理解いただくために当団体主催の講演会でのPRや他企業(イオン)のキャンペーンに参加しリーフレットやチラシを店頭で配布しながらPR活動を行いました。

ラッコハウスのポスター・リーフレットの作成
東北大学病院へのポスターおよびリーフレットの設置
(注目度をアップさせるために手作りパンフ立てを持参し設置)
小児病棟でのイベントの際にもラッコハウスのリーフレットを設置
・・・別添資料

町内会の班長会議でラッコハウス開設のご挨拶
地元の皆様にご挨拶と内容の説明をさせていただきました
町内会用に紹介チラシを作成。また町内会にも加入(年会費納入)

イオン「黄色いレシートキャンペーン」の登録団体となって店頭でPR活動
隔月の11日にジャスコ中山店の店内にて「ラッコハウス」のPR用チラシを配布し広報活動を行いました。地元の方に少しでもラッコハウスのことをお知らせできたのではないかと思います。・・・別添資料 写真A
<実施日/8月11日、10月11日、12月11日、3月11日>

新聞への記事掲載
開設時と開設から半年のタイミングで新聞に取り上げていただきました。
2回目の掲載時にはハウスの利用者の取材協力をいただき、利用者の声も掲載することができました。・・・別添資料

助成金の説明会で教えていただいたCANPANブログで「らっこのしっぽ」を立ち上げました。なるべく更新を心がけて利用者受け入れの準備の様子やラッコハウスの心地よい環境整備のために行なっている庭づくり(ボランティア)、また支援の輪の紹介などを随時アップしてきました。

今回の事業によって、団体の活動や地域社会にどのような成果・効果がありましたか。

【ラッコハウスの成果】

(1) 医療の現場でも滞在施設の必要性を認めていただきました

ラッコハウスを退院前に利用されたご家族のケースを東北大学病院の小児病棟の看護師さんが院内研究としてまとめられました。難病で生まれてからずっと長期入院をしてきた患児の退院が決まった際に、酸素吸引が必要なこともあり、親御さんは自分たちだけで対応できるのか不安が大きかったそうです。そこで、病院から遠い自宅（福島県）に帰る前に、病院の近くのラッコハウスを利用して、自宅に置くものと同じ大型の酸素ポンペを設置して退院後の生活をシミュレーションしてみることになりました。

利用後にラッコハウスでの様子を看護師さんに報告し、看護師さんが院内研究にまとめられました。ラッコハウスで過ごしてみたことで退院後の不安は払拭され、親御さんたちは自信を持つことができたそうです。患児も夜中にいつもはぐずるのに、ラッコハウスが家庭的な雰囲気のためか、すやすやと熟睡していたとお聞きしました。
・・・別添資料（新聞記事）

このようにラッコハウスが医療の現場においても、何かしら役に立てることが証明された形となり、これは大きな成果ではないかと思っております。

(2) 病気のお子さんと家族に安らぎの場、団らんの場を提供できました

東北大学病院の小児病棟では、子どもの入院には家族（主に母親）が必ず付き添います。子どもが小さい場合には同じベッドと一緒に寝ますが、子どもが大きくなるとベッドサイドの床にマットを敷いたりして寝るそうです。特に難病や重い病気入院しているお子さんが多い東北大学病院では、入院が長期になります。

患児にきょうだいがいる場合、きょうだいは実家で祖父母や父親と過ごします。母親に甘えられずにストレスを抱えてしまうこともよくあると言います。患児も同様にきょうだいと遊ぶ機会が極端に少なくなってしまう、きょうだいの中で孤立してしまうこともあります。子どもたちには家族の団らんが何よりも必要であると実感させられます。

クリスマスが近くなった頃、患児と母親、そして他県にいる父親、東京で大学に通うきょうだいがラッコハウスに集まり、家族揃ってクリスマスをお過ごしされました。また年末からお正月にかけては、別の家族が患児と母親、母親の実家に預けられているきょうだい、そして他県にいる父親がラッコハウスに集まり、家族団らんをお過ごしされました。このようにクリスマスもお正月も家族と一緒に過ごせる家族だけではないのです。入院している子どもと家族にはクリスマスもお正月もないのだと気づかされました。

ラッコハウスのような場がもっともっと必要なのではないかと思います。もちろん患児の状態によって自宅に帰れる子どももいますし、まだ病院から出られない子どももいます。でも自宅に帰りたくても遠くて帰ることのできない子どもとその家族にラッコハウスをもっと利用していただけたらと思います。

利用していただいたご家族には家族団らんの機会を提供し、看護の疲れを少しでも癒し、気分転換できる場所を提供できたのではないかと思います。・・・別添資料

(3) 家族の不安に寄り添う相談支援の足がかりとなりました

利用者の方にソーシャルワーカーからお子さんの病気に関する情報提供をさせていただく機会があったり、何気ない話の中から不安に思っていることなどのお話を聞いて差し上げることができ、今後の相談支援の足がかりをつかむことができたように思います。

(4) 支援の輪が広がりました

ラッコハウスの新聞記事を読んでいくつか反響をいただきました。おもちゃやタオル類など寄付のお申し出をいただいたり、地域の方からもご理解とご支援をいただくことができました。ご自身が大病をなされてリハビリにと作っているビーズのアクセサリーを病気の子どもとご家族にと下さっている方、ラッコハウスを利用される方に少しでも快適に過ごしていただければとお庭にお花や季節の木々を植えてくださっている方など、少しずつ支援の輪が広がり、ありがたいことだと思っております。

・・・別添資料

(5) 他団体との交流や協力ができました

ラッコハウスを開設し、できるだけ多くの方の目にふれるようにしたいと考え、全国のファミリーハウス(滞在施設)のネットワークを構築している団体に「ネットワークに加入させてほしい」と依頼をしました。結果的にはまだ明確な加入には至ってはおりませんが、東京から滞在施設の実態や利用者のニーズ調査のための訪問を受け、調査に協力したことで調査報告書に名前を入れていただくことができました。何よりも、調査にいらした方たち(ハウスマネージャー兼事務局の方々)との情報交換ができたことでラッコハウスの管理運営の課題が明確になったり、疑問点が解消できたりしました。

また、(財)がんの子どもを守る会や東北大学病院地域医療連携センターにHPのリンクをつなげていただくなどのご協力もいただきました。

(6) 家族の支援の必要性について啓蒙できました

病気の子どもの支援と同じように、その家族の支援も必要なのだということ、このラッコハウス事業ならびにPR活動を通して広く社会にお伝えできたのではないかと思います。そして、そのことは決して他人事ではないのだと気づいていただく機会になったのではないかと考えております。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか。

また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか。

【ラッコハウスの課題】

(1) マンパワーの不足

今回の「ラッコハウス」事業は当団体にとって初めての大きな新規事業でした。初めてのことでどれくらいの利用があるのか、どれくらいのパワーがこの新規事業にかかるのか、深く考える間もなくスタートしてしまっただけです。

その結果、ハウスボランティアの協力はあったものの、事務局が大部分の業務を担当することになり、事務局のオーバーフローを招いてしまいました。

利用者の受け入れのために必要な活動

予約受付、確認の電話、説明対応など、ラッコハウスの掃除(2DK)、寝具の装着、タオル類、マット類の準備、コップの消毒、電化製品の点検、おもちゃの準備、アメニティセットの準備など

利用後

寝具の取り外し&クリーニング出し、ごみ出し、小物類の洗濯、消耗品、備品の買い出し、クリーニングの受取、ボランティアさんへの連絡・調整など

利用当日

(状況によって)お迎え、部屋の温め(冬期間)(天候によって)除湿、鍵の受け渡し、お金の受領、注意事項の説明、アンケートの依頼など

このように利用者の受け入れの業務を行ないながら、事務局がボランティアの募集、育成までを手掛けるのはとても難しい状況でした。また利用者の対応には様々な配慮や心得が必要になります。そのために必要な研修や勉強会を行なう機会もなく、理事にボランティアサロンに参加してもらいましたが、実際にはボランティアしてくださる方に出会うまでには至りませんでした。

事務局が知り合いに頼んで掃除を手伝ってもらうことはあっても、利用者の対応までは任せられないこともあって、連日予約が入った場合などにはチェックインの後すぐに短時間で掃除から寝具、備品の準備までをこなさなくてはならず、事務局が自ら動かざるを得ない状況が結果的に多くなりました。

元々事務局2名は他に仕事を持っているため、週にフルタイムで働ける日は1～2日しかありません。その出勤日に掃除をしたり、クリーニングに行ったり、様々な用事で時間がとられることが多くなりました。レギュラーで行なっているイベントの準備もしながらラッコハウスに時間をとられることになり、そのしわ寄せが会員への報告ツールであるワンダーポケット通信の発行の遅れなどに影響してしまい会員の皆様に申し訳ない結果となりました。

< 課題解決に必要なもの >

ラッコハウス利用者受入のための体制づくり、ボランティアの人員、ボランティアの研修、ボランティアをコーディネートする責任者を（事務局とは別に）配置すべきではないかと考えています。

（2）利用が週末や連休に集中

二つ目は、ラッコハウスが一部屋しかないため、利用を原則として短期（2泊3日）にしています。そのためか週末、連休といった単発での利用がほとんどでした。将来的にラッコハウスを増やすのか、長期も受け入れるのか、効率よくご利用いただくためにはどうしたらよいかの課題です。利用者の方からは「6日間くらいあれば患児の容態も落ち着くのでそれくらいの期間にしてほしい」という声もいただきましたが、現状の1部屋という状況では個別対応していく他ないと考えております。

< 課題解決に必要なもの >

他の滞在施設の状況など情報収集を行い、長期的なビジョンを持つことが必要な時期に来ているように思います。また平日の利用促進のためには病院内での広報活動にさらに力を入れる必要があると考えます。

（3）財源の不足

ラッコハウスを利用していただき、アンケートに記入いただいた必要な備品などについては買い揃えたりして対応してきましたが、アパート自体の老朽化が心配の種です。例えば電気配線の問題（A増量のためには配電盤の交換が必要とのこと）、コンセントの数の問題、外壁の老朽化、湿気対策などなど。さらに快適にしていけるためには、予算的な問題、マンパワーの問題、立地の問題など様々に対策を立てる必要があります。

< 課題解決に必要なもの >

人的支援のネットワークを広げて、組織の基盤（財源）を強固にする。助成金の情報などを集めて資金調達していく人材やパワーが早急にほしいところです。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。
また、その際に必要なものは何ですか。

病気のお子さんと家族のための滞在施設「ラッコハウス」は、今後も引き続き管理運営して参ります。まだスタートしたばかりの事業ですので、どうしたらより利用しやすくなるのか、より快適に利用していただけるのかを利用者の声を元に模索していきたいと思います。そのためには、長期ビジョンをつくることはもちろん、他の滞在施設の情報を集め、必要な人材を求め、あるいは研修などを取り入れて人材育成し、財源の確保（組織の強化、助成金の情報）に努め、とやるべきことは多くあります。そして、ラッコハウスの認知度をアップさせ、利用者を増やしていきたいと思います。部屋数を増やすには人材と財源を含む物的資源が必要です。それを実現できるかどうかはまだわかりませんが、「ラッコハウス」をもうひとつの我が家として快適に利用していただき、看護の疲れを少しでも癒し、家族の団らんを過ごすことでまた治療に専念していただけるように、今後もできる限りの支援を続けていきたいと思います。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	200,000	200,000	
ラッコハウス利用料(滞在)	48,000	29,000	1000×29日
” (休憩)	24,000	500	500×1回
寝具クリーニング代	48,000	27,500	500×55組
事業費	280,000	80,897	
合計	600,000	337,897	

支出の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
水道光熱費	180,000	87,712	ガス、電気、水道
寝具クリーニング代	96,000	84,605	シーツ、カバー類
消耗品購入費	36,000	81,006	日用品、寝具カバー、マット類
衛生管理費	20,000		不要になりました
リーフレット作成代	20,000	38,379	インク、紙代
駐車場代	60,000		不要になりました
ボランティア交通費	168,000	32,000	1,000×32人
雑費	20,000	14,195	町内会費、会議費
合計	600,000	337,897	

寄付をいただいた方へのメッセージをどうぞ

このたびは、皆様にご寄付いただき、病気の子どもと家族のための滞在施設「ラッコハウス」を無事に1年間運営して参ることができました。

誠にありがとうございました。

寄付をいただくということは、私たちの活動をご理解いただき応援していただくということですので、とても心強く自信を持って活動することができました。

利用者の方と直接お会いして、喜んでいただけたとき、入院中のお子さんがここに来て本当の子どもらしさを取り戻し、元気いっぱい遊んでいる姿を見たとき、本当にこの事業をやってよかったと思いました。

ひとりのお母さんが「子どもが病気をもったことで、このようなラッコハウスがあることを知り、このような場所を提供して下さる方をありがたいと思いました」とアンケートに書いてくださいました。私たちも同じように寄付をくださった皆様に感謝し、今後もこの思いを大切に活動して参りたいと思います。

微力な私どもにお力添えをいただき本当にありがとうございました。